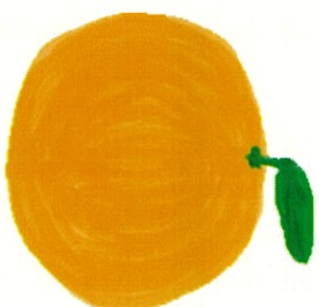


重層的支援整備体制事業の 取り組みについて



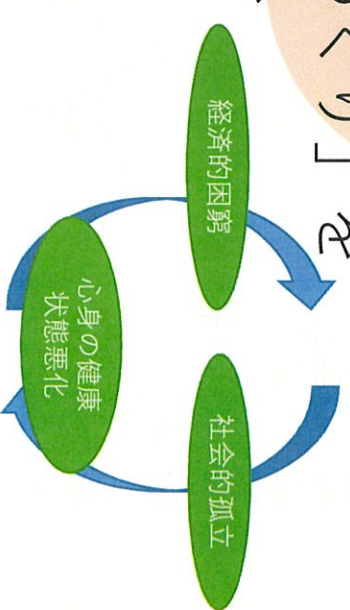
福知山市

地域包括ケア推進課

重層的支援とは？

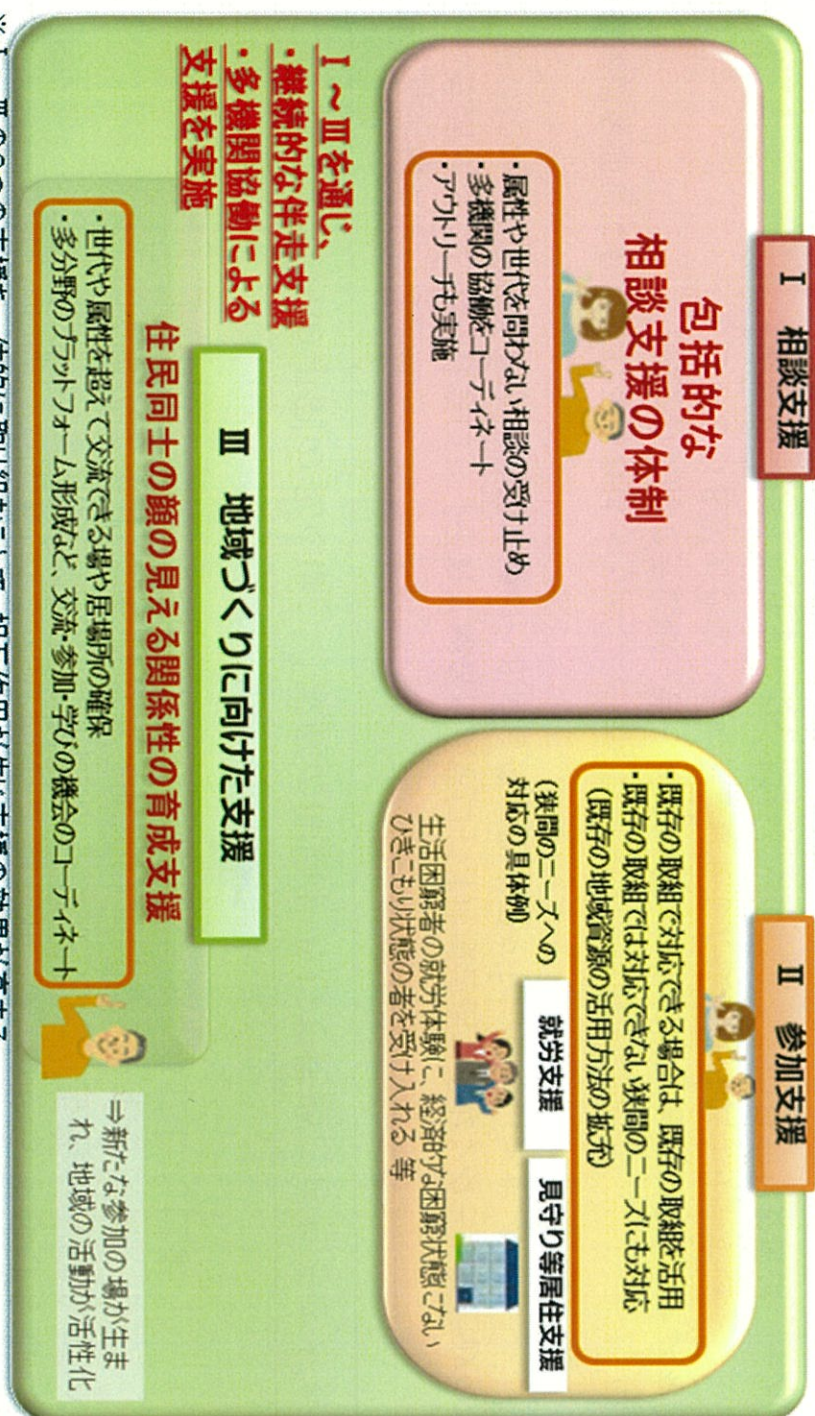
介護、障害、子育て、生活困窮といった、分野別の相談体制では解決に結びつかないような、複雑化・複合化する「くらしの困りごと」に対応する支援のことが重要です。

福知山市は、「相談支援」「参加支援」「地域づくり」を一体的に行う体制を整備することで、支援の充実を目指していきたいと考えます。



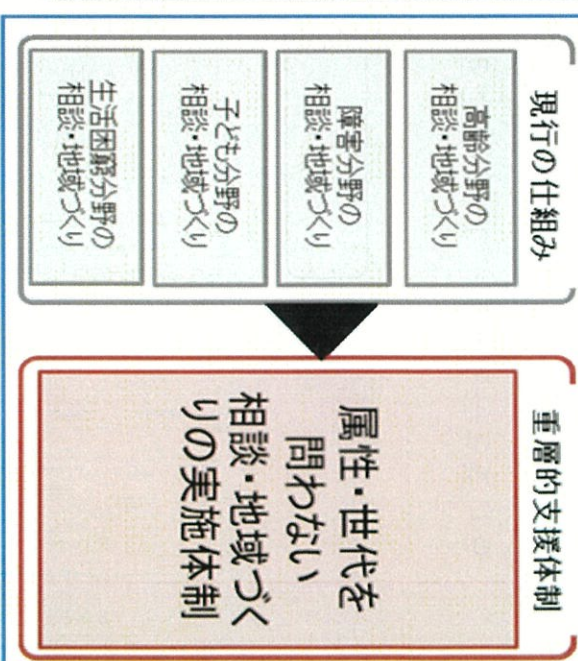
国の示す全体像

重層的支援整備体制事業の全体像



相談支援・地域づくり事業の一体的実施

○ 各支援機関・拠点が、属性を超えた支援を円滑に行うことを可能とするため、国の財政支援に関し、高齢、障害、子ども、生活困窮の各制度の関連事業について、一体的な執行を行う。



※ I～IIの3つの支援を一体的に取り組むことで、相互作用が生じ支援の効果が高まる。
 (ア) 狭間のニーズにも対応し、相談者が適切な支援につながりやすくなることで、相談支援が効果的に機能する
 (イ) 地域づくりが進み、地域で人と人とのつながりかきでできることで、課題を抱える住民に対する気づきが生まれ、相談支援へ早期につながる
 (ウ) 災害時の円滑な対応にもつながる

複雑化・複合化する課題を抱える世帯が増えています！

家庭内で複数の課題を抱えているといった世帯や、以前は親戚や地域住民等が支えていた困りごとを、誰にも相談できず解決の糸口が見つけられない世帯がある。

(例)

- ・ 高齢の親と引きこもりの子ども世帯（いわゆる「8050」）
- ・ 高齢の親が障害のある子どもや孫を支え、生活が困窮している世帯
- ・ 障害のある子どもの親が高齢化し介護を要する世帯
- ・ 高齢独居者が認知症により更に社会的に孤立した世帯



これらの事例の多くは、「家庭の問題」として見過ごされることも・・・

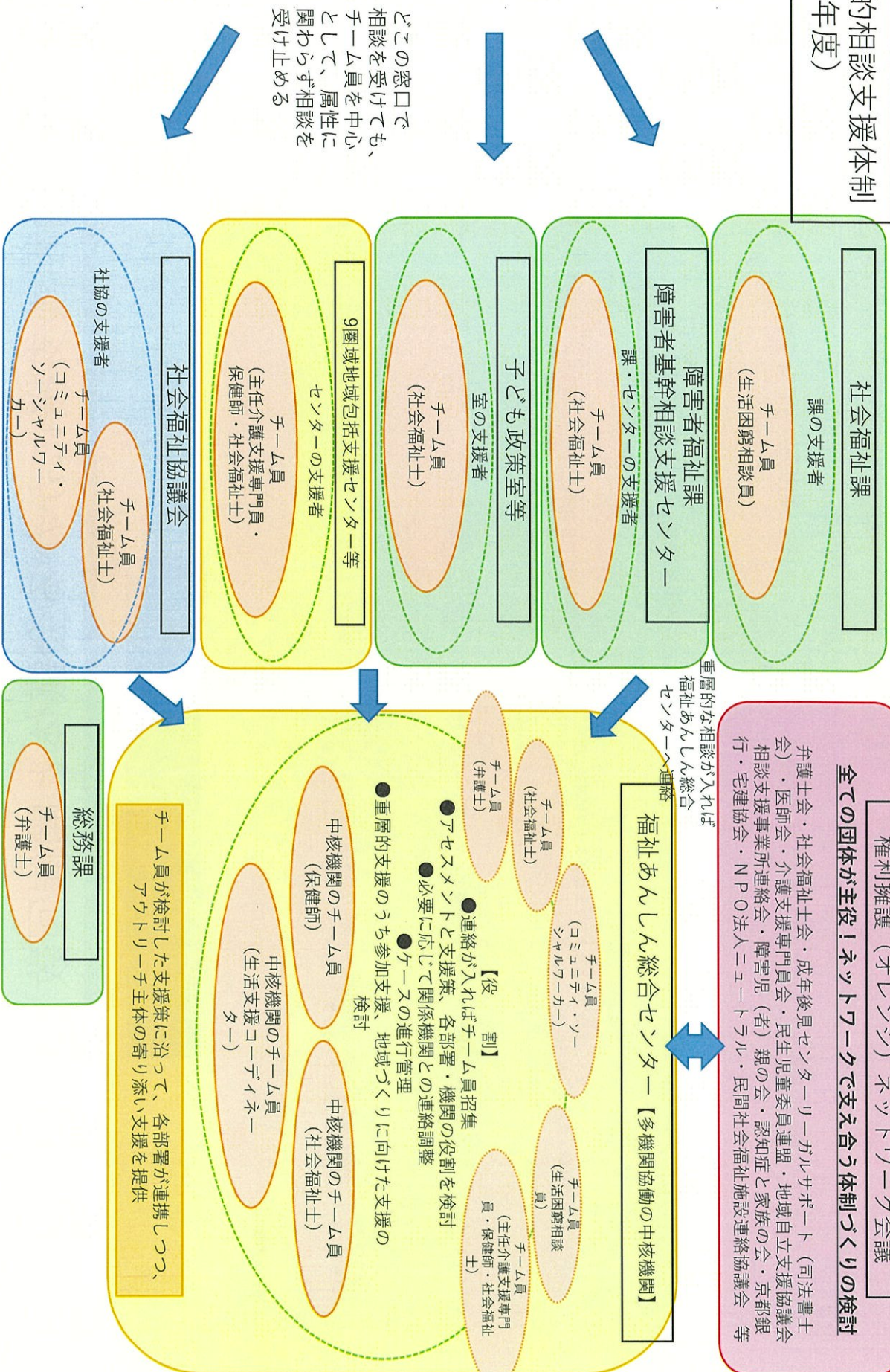
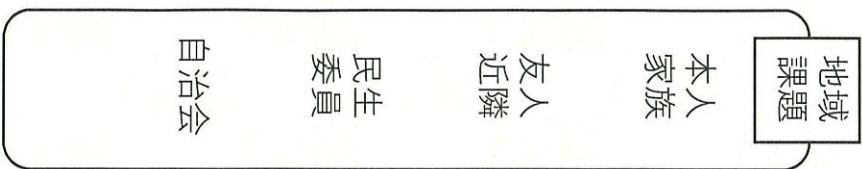
●そこで福知山市は近年・・・

「生活とひととの相談窓口」「子育て総合相談窓口」「地域包括支援センター」等行政の相談窓口を充実し、相談を待ち受けるだけでなく、積極的に家庭訪問等地域へ出向き伴走型支援を心掛けています。

●支援を通して見えてくることは・・・

- ・ 制度の狭間で苦しむ、若しくは制度の対象だが利用できるサービスを希望されない場合がある
- ・ 自らSOSが出せないため、重症化した後の関りになりやすい
- ・ 複数の課題を抱えながら、地域から孤立する方の見守り支援は、一人の力では支えきれない
- ・ 答えや成果が見えない支援がある
- ・ 支援者と支援を受ける方の価値観の違いが支援を困難にする
- ・ 信頼関係の構築が難しい

福知山市の重層的相談支援体制 (令和5年度)



権利擁護 (オレソジ) ネットワーク会議

全ての団体が主役！ネットワークで支え合う体制づくりの検討

弁護士会・社会福祉士会・成年後見センターリーガルサポート (司法書士会)・医師会・介護支援専門員会・民生児童委員連盟・地域自立支援協議会
相談支援事業所連絡会・障害児 (者) 親の会・認知症と家族の会・京都銀行・宅建協会・NPO法人ニョートル・民間社会福祉施設連絡協議会 等

令和5年度 重層的相談支援にかかる会議体と開催回数

令和5度把握した件数 108件 (R5.1月末在)
 (参考：令和4年度 103件)

R5年度 開催回数 (R6.1月末 現在)		(参考) R4年度 開催回数			
会議の名称	出席者	協議目的・内容		協議の対象	
2	2	オレンジネットワーク会議	事務局所管課の専門職チーム員と所属長及び委員	権利擁護や重層的支援に関する関係機関の「顔の見える関係」の構築、 情報交換、総合調整、取り組みに関する協力体制を進めることを目的に 協議をする	ケース支援に 必要な事例
10	12	チーム員定例会議 (1回・月開催)	事務局 (高齢・子ども・障害・生活困窮の所管課) の専門職チーム員、必要に応じて関係機関	重層的支援が必要なケースの進行管理を目的に協議をする	トータルケース
10	10	重層的課題に関する 初回相談時のチーム員会議	事務局 (高齢・子ども・障害・生活困窮の所管課) の専門職チーム員、必要に応じて関係機関を 招集	重層的支援を開始するにあたり、対象ケースの情報共有と各部署・機関の 役割分担、支援方針等を共有することを目的に協議をする	
16	20	地域ケア会議	対象ケースに関わる関係機関、地域の支援者、 本人や家族	対象ケースの支援のあり方の検討、そこから見えてくる地域課題を把握し、 地域づくりに結びつけていくことを目的に協議をする	個別ケース
88	69	個別ケース検討会議	対象ケースに関わる関係機関	対象ケースの支援のあり方をより適切にしていいくことを目的に協議をする	

就労支援の実情

《支援状況》 ※令和5年10月末時点

(1) 「生活とごとの相談窓口」による相談支援

福知山市役所 1F 社会福祉課内に窓口を設置。相談員が相談者の困りごとを包括的に聴き、個々の状況に合った支援先を紹介する。

⇒ R5年度相談件数 70件 内就労に繋がった件数 2件 (参考：R4年度相談件数 196件 内就労に繋がった件数 5件)

(2) 味步里（みぶり）による農業体験

草引きや収穫といった農業体験を通して、ひきこもりや昼夜逆転、体力がない等といった状況を改善し、就労に繋ぐ支援を行う。
(市が業務を委託)

⇒ R5年度利用者数 6人 (参考：R4年度利用者数 6人)

(3) ニュートラルによる就労支援

ひきこもり、対人やコミュニケーション能力が弱い等の困りごとを抱える人を対象に、心理相談や就職活動のサポートを通して就労に繋げる支援をする。(市が業務を委託)

⇒ R5年度利用者数 6人 内生活保護受給世帯 3人 (参考：R4年度利用者数 10人)

(4) ハローワークによる巡回相談

生活保護受給世帯を対象に、1回/月 市役所を会場に巡回相談を実施。就労先の紹介をする等の就労支援を行う。

⇒ R5年度相談件数 7件 内就労に繋がった件数 2件 (参考：R4年度相談件数 23件)

※重層的支援のうち、「地域づくり」に関する取り組みは、社会福祉協議会より説明

重層的支援 令和6年度の取り組み（案）

●引き続き、『重層的支援体制整備事業』について地域福祉計画に記載した内容の具現化に向けて取り組む

※『重層的支援体制整備事業』の令和7年度からの本格実施に向けて準備を整える。

《重点的な取り組み》

- ・ 9つの地域包括支援センターをはじめ、福祉保健部の相談窓口が、年齢や属性を問わず地域住民の困りごとを包括的に受け止め、必要な支援に繋げる機能の充実を目指す。
- ・ 重層的支援に関わる関係機関が、チームとして一体的に支援できる“繋がリ”と“スキルアップ”を目指す。
- ・ 成年後見センターの啓発活動に取り組みとともに、報酬助成の見直し等により、利用しやすい制度を目指す。
- ・ 住民同士が交流できる多様な居場所づくり、支え合いのしくみづくり、就労支援の充実を目指す。

地域の支え合い活動の現状報告と今後の活動計画について

支え合い活動とは

- ・住民による家事援助、ゴミ出し支援、サロンや見守り活動など、**住民が互いに行う生活支援の活動、共に運営・参加する通いの場**などを指す。
- ・これを「**B型**」(通所型サービスB、訪問型サービスB)といい、福知山市は**訪問型サービスB**いわゆる住民同士の“助け合い”活動について、補助金やサポーター養成講座等で推進支援を行っている。

訪問型サービス内容

あらかじめ登録したボランティアが、高齢者の方などの困りごとを解決するお手伝いをする。
サービス内容の例

- ・庭の草ひき
- ・掃除、洗濯、調理等の家事
- ・ゴミ出し（1週間分）
- ・電球の取りかえ
- ・話相手
- ・粗大ゴミの搬出補助 など



※サービス内容、対象は
実施主体（団体）が
自由に設定できます

※活動内容を決めるのは
○地域のみなさん
×市町村ではない

広がる支え合い活動

- ・(内田町・尾藤口) まずはモデル的に自治大会単位で活動を始め徐々に対象エリアを拡大させていきたい。
- ・(中六人部・庵我) 地域協議会が主体となる。主に利用者と活動者のマッチングを担う役割。
- ・(夜久野) R5年7月～新たに「一人暮らし高齢者宅へ見守り訪問活動」開始となった。

夜久野みらいまちづくり協議会

見守り訪問活動

この活動は、希望される一人暮らし高齢者のお宅へ、定期的に訪問して、元気ですかと声かけなどを行う活動です。今後、協力をいただけたら、皆さんの活動を広げていきたいと考えています。

R5.10.19 両丹日日新

有償ボランティア事業で住みよく

内田町が支え合い活動事務局はNPOに委託

サボーター養成講座を受ける住民たち

R5.11.9 両丹日日新

住民同士でただすけ“愛”

有償ボランティア事業 来月開始へ養成講座